

「神の国の福音」

マルコ 1:14~15

はじめに

若い頃、私は聖書を自分の人生の進路、歩み方を決める道具のように使っていました。自分はどんな大人になって、何をすれば良いか、その答えを得る本が私にとっての聖書でした。確かにこのように記されているからです。

【新改訳 2017】

Ⅱ テモテへの手紙

3:16 聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。

この御言葉にならい、今日に至るまで欧米をはじめ様々な国で、聖書を用いた人間教育、道徳の学びがなされています。私も過去に聖書を用いた自己啓発プログラムを学生たちに教えていた経験があります。感謝、愛、喜び、忍耐などについての御言葉を用いて正しい生き方、プラス思考、前向きな考え方を身に着けることによって成績や能力の向上を図るのです。そしてそれに真剣に取り組んだ若者たちは確かに成績が上がり、スポーツや芸術などの面で能力が向上しました。しかしイエシュアはこう言っておられます。

【新改訳 2017】

ルカの福音書

24:44 「わたし（イエス）について、モーセの律法と預言者たちの書と詩篇に書いてあることは、すべて成就しなければなりません。」

ヨハネの福音書

5:39 「聖書は、わたし（イエス）について証しているものです。」

このように聖書は決して単なる道徳の本ではなく、ましてや自分の人生を占う本などではなく、また人の能力を向上させるための本ではありません。それはいわゆるおまけ、付録のようなもので、聖書が記された真の目的ではありません。聖書とは本来「イエシュアについて」すなわちイエシュアがどのような御方で、何を成し、そして何を成そうとしておられるのかが書き記された本だということです。そしてそれは御父である神の御心、御計画に直結しています。ですから「人が、自分が」何かをするためにではなく、「神が」成そうとしておられる御計画を知り、信じてそれを待ち望み、そして宣べ伝えるために、聖書は読まれなければならないのです。そのような思い、視点で今日の御言葉をともに学んでまいりましょう。

1. ヨハネが捕らえられる

【新改訳 2017】

マルコの福音書

1:14 ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。

バプテスマのヨハネが逮捕されました。その詳細はこのマルコの福音書 6 章に記されていますが、ここではイエシュアが福音を宣べ伝え始めるきっかけとなっているように記されています。つまりヨハネが捕らえられることと、イエシュアがガリラヤに行って福音を宣べ伝え始めることには何等かの結びつきがあるということです。その結びつきをヘブル語の視点で考えてみたいと思います。まず「ヨハネが捕らえられた」という記述について。ヨハネ(יְהוָה) という名前はハーナーン(חֲנָן)「恵む、恵みを与える」という意味があり、その最初の言及である創世記 33:5 から「神がヤコブ (イスラエル) を恵んでくださった」ゆえに与えられた「子どもたち」を指し示していることが考えられます。

【新改訳 2017】

創世記

33:5 エサウは目を上げ、女たちや子どもたちを見て、「この人たちは、あなたの何なのか」と尋ねた。ヤコブは、「神があなた様のしもべに恵んでくださった子どもたちです」と答えた。

このように「恵んでくださった」ハーナーンとは本来、ヤコブすなわちイスラエルの子どもたち、イスラエルの子孫であるユダヤ人を指し示していると考えられます。そして「捕らえられた」と訳されている言葉はヘブル語ではサーガル(סָגַר)と言い、本来は「閉じる、塞ぐ」という意味の動詞です。

【新改訳 2017】

創世記

2:21 神である【主】は、深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。

これは神が最初の人であるアダムから取られたあばら骨で、その妻エバを造られる場面ですが、「肉をふさがれた」と訳されている部分に、聖書で最初のサーガルがあります。またこの箇所には「～の代わりに」という意味のタハット(תַּחַת)という前置詞が使われているため、直訳すると「あばら骨の一つを取り、その代わりとして肉でふさいだ」となります。ですから本来のサーガルには別のもので代用する、代りのものをあてがうという意味があると考えられます。これらを踏まえてこの「ヨハネが捕らえられた」という記述の持つ意味を捉えるならば、「イスラエルの子孫、ユダヤ人に代わって、身代わりとして」のイエシュアの姿が浮かび上がってくると考えられます。そしてその身代わりとしてのイエシュアに起こることが次の「イエスはガリラヤに行き」という記述に表されていると考えられます。

2. ガリラヤ

ガリラヤ(גַּלְיָלָה)はユダヤの北に位置し、当時は「異邦人のガリラヤ (イザヤ 9:1)」と呼ばれ、ユダヤに住む人々から蔑視されていました。この地名は「転がす、移す」という意味のガーラル(גָּרַל)という動詞の派生語と考えられ、その最初の言及は創世記 29:3 になります。

【新改訳 2017】

創世記

29:1 ヤコブは旅を続けて、東の人々の国へ行った。

29:2 ふと彼が見ると、野に井戸があった。ちょうどその傍らに、三つの羊の群れが伏していた。その井戸から群れに水を飲ませることになっていたからである。その井戸の口の上にある石は大きかった。

29:3 群れがみなそこに集められたら、その石を井戸の口から転がして、羊に水を飲ませ、その石を再び井戸の口の元の場所に戻すことになっていた。

これはヤコブ（イスラエル）が故郷を離れた旅路での出来事ですが、ここで「石を井戸の口から『転がして』」という箇所にも最初のガーラルがあります。「石」はヘブル語でエヴェン(אבן)と言い、「父」を意味するアーヴ(אב)と、「子」を意味するベーン(בן)が合わさった言葉と考えられ、ヘブル語の「石」エヴェンには「御父の御子」すなわち神の御子イエシュアが指し示されていると考えられます。ですから本来のガーラルには「石」にたとえられた御子イエシュアを「転がす、移す」こと、すなわち天から地に下らせる、遣わすことが指し示されていると考えられます。

以上のことから「ヨハネが捕らえられた」、また「イエスはガリラヤに行き」という記述には、イスラエルの子らであるユダヤ人たち、およびそれに連なるすべての人の身代わりとして死なれるため、すなわち十字架にかかられるために、これらの人々が救われるために天から地に降りて来られた御父の御子としてのイエシュアの姿が表されていると考えられます。

3. 福音

そしてイエシュアは「神の福音を宣べ伝えて」とあります。「神の福音」と訳されていますが、ヘブル語では「神」を意味するエローヒーム(אלהים)と「福音」を意味するベソーラー(בשורת)の間に「国」を意味するマルフト(מלכות)が記されており、「神の国の福音、御国の福音」とも訳することができます。「福音」は日本語では吉報、すなわち「良い知らせ」という意味ですが、ヘブル語ではどうでしょうか。ベソーラーの最初の言及を見てみましょう。

【新改訳 2017】

Ⅱサムエル記

4:10 かつて私に『ご覧ください。サウルは死にました』と告げて、自分では良い知らせをもたらしたつもりでいた者を、私は捕らえて、ツィクラグで殺した。それが、その良い知らせへの報いであった。

これはイスラエルの王ダビデの言葉ですが、彼の命を狙っていたサウルの死を伝える「良い知らせ」が聖書で最初のベソーラーです。確かにダビデにとってこれは勝利の知らせ「良い知らせ」以外の何ものでもなかったのですが、この吉報をもたらしたアマレク人をダビデは殺してしまいます。このように「福音」ベソーラーとは本来、それを知らされた者には勝利を、しかしそれを知らせた者には死を与えるというものであることが解ります。それはまさにイエシュアの十字架の死によってイスラエルとそれに連なるすべての人々に救いがもたらされることを指し示していると考えられます。またこのベソーラーは、「告げ知らせる」という意味の動詞バーサル(בשר)が語源となっているため、この最初の言及についても見ておきたいと思えます。

【新改訳 2017】

I サムエル記

4:17 **知らせを持って来た者は**答えて言った。「イスラエルはペリシテ人の前から逃げ、兵のうちに打ち殺された者が多く出ました。それに、あなたの二人のご子息、ホフニとピネハスも死に、神の箱は奪われました。」

4:18 彼が神の箱のことを告げたとき、エリはその椅子から門のそばにあおむけに倒れ、首を折って死んだ。年寄りで、からだが重かったからである。エリは四十年間、イスラエルをさばいた。

この内容は「良い知らせ」どころか最悪の知らせです。戦に敗れ、多くの国民は殺され、祭司であり指導者であった存在を失い、さらにその後継ぎも死に、神の民としての象徴までも奪われ、イスラエルが国家として立つためのすべてを失った、国家存亡の危機と言っても過言ではない状態を指し示しています。このように、「福音」と訳されたベソーラーの語源であるパーサルとは本来、国が平和になることでも豊かに繁栄することでもなく、逆に滅びる、終わってしまうことを指し示していると言えるのです。「福音」が滅びを指し示しているとは、これは一体どういうことでしょうか。その答えが次に語られています。

4. 神の国

1:15 「**時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。**」

「福音」が国の繁栄ではなく滅亡を指し示しているという、その理由は「神の国」が来るためです。この「神の国、御国」がこの地上に建てられる時、それ以外の国家は対立するどころか存在すらしません。すべての人種、民族、全人類がこの中に入るのです。それが神がアブラハム、イサク、ヤコブすなわちイスラエルに約束されたことの成就であり以下に記されている通りです。

【新改訳 2017】

創世記

28:13 そして、見よ、【主】がその上に立って、こう言われた。「わたしは、あなた（イスラエル）の父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。わたしは、あなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫に与える。

28:14 あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西へ、東へ、北へ、南へと広がり、**地のすべての部族はあなたによって、またあなたの子孫によって祝福される。**

28:15 見よ。わたしはあなたとともにいて、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。

「国」はヘブル語でマルフト(מַלְכוּת)と言いましたが、この言葉はマーラク(מֶלֶךְ)「王が治める」という動詞、あるいはメレク(מֶלֶךְ)「王」という意味の名詞の派生語であると考えられ、民主主義国家でも共産主義国家でもない、王制国家「王国」を指し示しています。「神の国、御国」の王とはもちろん神であり、神の御子であるイエシュア、イエス・キリストです。その王国が、イエシュアの王国がやがてこの地に来ようとしているのです。

5. 悔い改める

そこでイエシュアは「悔い改めて福音を信じなさい。」とされています。「悔い改める」ことをヘブル語でシューヴ(שוב)と言い、創世記 3:19 にその最初の言及があります。

【新改訳 2017】

創世記

3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」

一般的に「悔い改める」とは反省すること、思いや考えを改める、正すことを意味しますが、ヘブル語のシューヴは本来、このように「大地に帰る、ちりに帰る」こと、すなわち肉体が朽ち果てて無くなってしまふこと、一般的に言う死ぬことを指し示しています。ではイエシュアは人々に死んでしまえ、滅びてしまえと言われたのでしょうか。そうではありません。上記の御言葉は、神がアダムとその妻エバに語られたものですが、このように語られて後、神は二人にある物をお与えになります。

【新改訳 2017】

創世記

3:21 神である【主】は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。

そして神はこのように言われました。

【新改訳 2017】

創世記

3:22 神である【主】はこう言われた。「見よ。人はわれわれのうちのひとりのようになり、善悪を知るようになった。」

神はアダムとエバに皮の衣を着せ、「人はわれわれのうちのひとりのようになり…」と言われました。この一連の流れに、神の御計画が表されていると考えられます。すなわちこうです。すべての人の肉体はいずれ朽ち果てて無くなります。しかしその後、神は再び私たち人に「皮」を着せてくださるということです。この「皮」はヘブル語でオール(אור)と言い、動物の皮だけでなく人間の皮膚をも指し示す言葉です。ですからこの「皮の衣」は新しい人の肉体を表した「型」だと考えられます。そしてこの新しい肉体は以前のそれとは違い「人はわれわれのうちのひとりのようになり」とあるように、神と同じになる、すなわち永遠に無くならない、朽ちることのない、不老不死の肉体であることが指し示されていると考えられます。つまり以下のように記されている通りです。

【新改訳 2017】

I コリント人への手紙

15:50 兄弟たち、私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。

15:51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。

15:52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

15:53 この朽ちるべきものが、朽ちないものを必ず着ることになり、この死ぬべきものが、死なないものを必ず着ることになるからです。

このように、すべての人の肉体は必ず朽ち果ててシューヴすなわち「土に帰り」、その後朽ちない永遠の肉体を「必ず着ることになり」ます。これが神によって定められているのです。このように、イエシュアが言われた「悔い改めなさい」シューヴとは本来、人の努力や意思によって変える、改めるという類のものではなく、神の命令によって定められた、必ず実現するご計画を指し示していると考えられます。ちなみに先ほど述べた「福音」ベソーラーの語源であるバーサルとまったく同じ綴りでバーサール(בָּרְסָר)という名詞があり、その意味はなんと「肉」です。このように、「悔い改める」こと、また「福音」を信じることは、私たち人の「肉」体、身体に関する神の御計画を指し示していると考えられます。

6. 身体の福音

私たち人は大小様々な悩みや心配、問題を抱えて生きていますが、そのほとんどがこの身体に関することです。人は健康で長生きするために、安全で快適な環境を求めます。また美しい外見や、強い力、高い能力を求めます。これらのものが思うように得られないと人は不安になったり、悲しんだり、あるいは怒り、時に他者と争ったりします。私たちの今のこの肉体が、やがて朽ち果てるものである以上、これらの悩み、問題が消えることはありません。神はそのことをよくご存じで、私たちの問題を根本から解消、解決しようとしておられるのです。それが今日述べた「神の国、御国」であり、そして永遠に「朽ちない、死なない」肉体です。すべての人は豊かで、安全で快適な暮らしを望んでおり、賢く、強く、美しくありたいと願っています。神は「それらのもの」を豊かに与えようとしておられるのです。だからイエシュアはこのように言われます。

【新改訳 2017】

マタイの福音書

6:32 これらのものはすべて、異邦人が切に求めているものです。あなたがたにこれらのものすべてが必要であることは、あなたがたの天の父が知っておられます。

6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。

ですから「神の国の福音」とは、「肉体、身体福音」とも言い換えることができます。今日の冒頭で聖書は「人が、自分が」何かをするための本ではなく、「神が、イエシュアが」何を成そうとしておられるのかが記された本であると述べましたが、その神が、私たち以上に私たちのことを心配し、その最も必要なものをご存じで、それを備え、そして与えようとしておられるのです。このように、神の御計画は私たちにとってかけ離れた、無関係なものではなく、むしろその逆で、私たちの必要に完璧に応えるもの、いやそれをはるかに超えるものであることを知ってください。ですからますますこの「神の国」を求めてまいりましょう。その「時」は確実に近づいています。